



薬による副作用の話

○ 副作用とは・・・



薬の本来の目的(主作用)でない作用を副作用と呼びます。副作用のない薬はありません。

- ・ 例えば、「酸化マグネシウム」という薬は、便秘をよくしたり、胃酸から胃の粘膜を守る効果があります。便秘で飲んでいる場合には、便秘が良くなることは期待する作用ですが、胃の薬で飲んでいる場合には、便がゆるくなってしまうのは、副作用になります。
- ・ 軽い副作用の場合、注意をしながら飲み続けたほうがよい場合もあります。
例: 抗生物質による軽い胃腸症状、アレルギー薬による眠気など
- ・ 気になる症状がある場合は、必ず医師に相談し、指示をもらいましょう。

副作用が出やすい時	副作用が出やすい方
新しい薬を飲み始めた時	アレルギー体質
薬の量が増えた時	腎臓や肝臓の病気の方
複数の薬を飲んでいる時	高齢の方

○ 重大な副作用に注意



薬が体に合わない場合は、そのまま飲み続けていると、命に関わる重大な副作用を起こすことがあります。重大な副作用はまれにしか起こりませんが、万が一発症した場合は、すぐに医師と連絡をとるにより、悪化を防ぐことができます。

<重大な副作用の例>

副作用名	こんな症状が出たら注意	起こしやすい薬
ショック	皮膚が赤くなる・かゆくなる、唇や舌・手足がしびれる、心臓がドキドキする、呼吸が苦しくなる等	多くの薬で可能性あり(特に抗生物質、消炎鎮痛剤等)
皮膚粘膜眼症候群・中毒性皮膚壊死症	目が充血する、皮膚が赤くなる、水ぶくれができる、等 (頻度・・・人口100万人あたりに年間数人)	
肝機能障害	高熱、皮膚にブツブツができる、食欲がない、体がだるい、皮膚や白目が黄色くなる、体がかゆい等	多くの薬で可能性あり(特に特に抗生物質、消炎鎮痛剤、糖尿病用薬等)
喘息	息苦しい、呼吸をするとゼーゼー音がする等	消炎鎮痛剤(飲み薬、貼り薬)
間質性肺炎	息切れ、乾いた咳、発熱	小柴胡湯、抗リウマチ薬、抗生物質の一種等

※主な重大な副作用の概要は、下記のサイトに記載されています。

⇒医薬品・医療機器総合機構 http://www.info.pmda.go.jp/juutoku_ippan/juutoku_ippan.html



* 副作用を防ぐためには・・・!

- ・ 決められた用法・用量を守りましょう(自己判断で、量を増やしたりしない。)
- ・ 服用中の薬、体質や病状、過去の副作用について医師・薬剤師に伝えましょう。お薬手帳が便利です。
- ・ 副作用を早期に発見するため、定期検査を受けましょう(例: 長期で薬を服用中の方、甲状腺疾患治療薬、抗血小板薬を服用中の方、など)。
- ・ 新しい薬が出た場合、副作用が出た時の症状、対処法について、予め説明を受けておきましょう。